【令和８年度】　エシカファーム　ガイドライン評価改善シート

作成日:令和8年 9月16日　スタジオ　アルテ

本部	代表	施設長
	風間	田中

前年度　施設目標	前年度の改善への取り組み	・販路も増え、定期的な注文・販売があり作業は安定しているがそれに特化してしまうあまり、支援内容がおろそかになっている気がする。 ・しっかりとミーティングの時間を設けスタッフ間の情報交換・共有の場を設けていきたい。
	前年度の施設目標 （支援方針）	・メンバーが安心できる「場」の提供の継続　・関係機関や保護者との情報共有・連携の強化 ・個々の強みを活かした作業の充実化・能力の向上→能力給、評価にて工賃アップを目指す

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上で相違点	事業所の強み	事業所の改善点
環境・体制整備	保護者評価では、活動・作業スペースについて5名全員が「十分に確保されている」と回答しており、事業所内評価でも作業環境は概ね適切と認識している。利用者が落ち着いて作業できる環境が確保されている点は共通している。	職員配置について保護者評価は「はい」4名、「どちらともいえない」1名で概ね良好。一方、事業所内では日々の製造・販売等の業務量が多い時に、計画的な支援や職員間の連携に十分な時間を確保しにくいと感じている。	・利用者が安心して作業できるスペースが確保されている。 ・利用者の状態に合わせた作業環境を設定できている。 ・大きな環境上の不満が保護者から挙がっていない。	・在庫管理等を徹底し、繁忙時でも支援の質を維持できる業務分担を明確にする。 ・職員配置は充足しているので、動線を定期的に見直す。 ・バリアフリー面は保護者評価で1名が「どちらともいえない」のため、設備・動線を再点検する。 ・支援の質においては、研修計画に沿った研修やコンサルの先生への相談体制、ｅサービス等の活用などのコンテンツを取り入れる体制は出来ている。
業務改善	朝のミーティングやスタッフノート等を活用し、必要な情報を共有している。保護者アンケートの実施により、利用者・保護者の意向を把握し改善につなげる仕組みも整えている。	保護者からは支援や説明に高い評価を得ている一方、事業所内ではPDCAサイクルや業務改善に職員全体が十分参加できていないとの認識がある。日常業務の振り返りを改善行動につなげる仕組みが弱い。		
適切な支援の提供	個別支援計画、仕事内容・作業内容の個別配慮について、保護者5名全員が「はい」と回答している。仕事内容、工賃、相談のしやすさについても全員から肯定的な評価を得ている。	保護者からは十分な支援を受けているとの評価がある一方、事業所内では販売・製造業務に偏ることで、利用者一人ひとりのアセスメントや支援目標に沿った関わりが後回しになる懸念がある。		
関係機関や保護者との連携	LINE WORKSや電話、面談を通じて保護者と情報共有を行い、必要に応じて相談支援専門員等の関係機関にも連絡している。保護者5名全員が面談・生活等への助言に肯定的な回答をしている。	保護者からは連携に対する不満はみられない。一方、事業所側では日々の業務状況によって連絡や情報共有が担当者個人に依存しやすく、計画的・継続的な連携の仕組み化が必要と考えている。	・保護者との連絡手段が複数あり、必要時に連携できる。 ・相談支援専門員等へ事業所側から連絡する姿勢がある。 ・年2回の面談等で作業場面や成長を共有している。 　また、職員がメンバーとの会話中から不安等を共有する体制をつくる。	
保護者への説明責任等	仕事の内容、利用者負担額、工賃内容の説明、相談環境、面談・助言について保護者5名全員が「はい」と回答しており、説明責任は概ね果たされている。	保護者評価との大きな相違はないが、今後は工賃の評価基準や作業能力の変化をより分かりやすく説明し、利用者本人にも見通しを持てる形にしていく必要がある。	・面談時に作業状況や評価を伝えている。 ・工賃や仕事内容について相談しやすい。 ・保護者が事業所の支援内容を理解できている。	
非常災害等への対応	緊急時対応、防犯、感染症対応、訓練について保護者5名全員が「はい」と回答しており、安全面の取り組みは十分に認識されている。広報紙やLINE WORKSでも取り組みを報告している。	保護者評価との大きな相違はない。今後も訓練の実施だけでなく、緊急時の連絡方法や対応手順を利用者・保護者に分かりやすく周知し続ける必要がある。		
支援プログラム	利用者一人ひとりの健康・生活、作業に必要な運動・感覚、認知・行動、コミュニケーション、人間関係・社会性を意識し、就労場面の中で総合的に支援する。個別支援計画と作業アセスメントを連動させる。	保護者からは個別配慮に高い評価がある一方、事業所内では日常の作業提供が中心となり、支援の目的や成長を職員間で十分に言語化できていない場面がある。		

来年度　施設目標	改善への取り組み	<利用者支援> ・就労アセスメントを定期的に見直し、個別支援計画と作業内容を連動させる。 ・eサービスのアセスメント評価キットを導入し、職員のアセスメントを一定化する。 ・作業工程を見える化・段階化し、「できること」の増加を記録する。 ・本人が相談しやすい環境を整え、面談時に成長と次の目標を共有する。 <職員・業務改善> ・月1回の施設ミーティングでPDCAを実施し、担当・期限・進捗を明確にする。 ・業務の洗い出しと役割分担を行い、属人化を減らす。 ・研修や他事業所見学の内容を職員間で共有し、支援の引き出しを増やす。 <工賃・仕事づくり> ・商品価格、原価、販売方法を見直し、安定した受注と工賃向上につなげる。 ・新商品・新作業を増やし、利用者ごとの強みを活かせる仕事を広げる。 ・SNS、関係機関への案内、見学・体験受入れを通して新規利用者・販路を広げる。
	施設目標 （支援方針）	・新規利用者の獲得 ①学校、相談支援事業所、職安等への定期的な案内を行う。 ②SNSでの発信や、見学・体験利用を積極的に受け入れ、事業所を知ってもらう機会を増やす。 ・メンバーの能力向上 ①一人ひとりの就労アセスメントを行い、強みと課題を明確にする。 ②段階的に取り組める作業を設定し、工賃・評価とのつながりを本人・保護者へ説明する。 ③作業内容を見える化し、できる作業を増やす。 ・事業所の能力向上 ①業務と役割分担を明確にし、効率の良い支援時間を確保する。 ②月1回の振り返りで改善項目を確認し、職員全体でPDCAを回す。 ③外部研修・他事業所見学・コンサル等を活用し、支援の質を高める。

保護者アンケート集計（回答者 5名）　R8.7月実施

全体集計	はい 48件（96%）	どちらともいえない 2件（4%）	いいえ 0件（0%）	満足度 5/5（100%）

区分	保護者アンケート項目	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	活動等のスペースが十分に確保されているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
環境・体制整備	職員の配置数や専門性は適切であるか	4名（80%）	1名（20%）	0名（0%）
環境・体制整備	設備等のバリアフリー化への配慮が適切か	4名（80%）	1名（20%）	0名（0%）
適切な支援の提供	個別支援計画がニーズや課題を踏まえて作成されているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
適切な支援の提供	仕事内容・作業内容等が個別に配慮されているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
保護者への説明責任等	仕事内容・利用者負担額・工賃内容等の説明が丁寧か	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
保護者への説明責任等	仕事や工賃について相談しやすい環境であるか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
関係機関や保護者との連携	面談や生活等に関する助言等の支援が行われているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
非常時等の対応	緊急時等のマニュアル周知・説明と訓練が行われているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）
満足度	事業所の支援に満足しているか	5名（100%）	0名（0%）	0名（0%）

集計結果：全50回答のうち「はい」48件（96%）、「どちらともいえない」2件（4%）、「いいえ」0件。「どちらともいえない」は職員配置・専門性、バリアフリー設備の2項目で各1名。その他8項目は5名全員が「はい」と回答し、事業所支援の満足度も100%でした。